



新着図書



おひとり2冊まで、2週間（新着本は1冊）借りられ

日野南コミュニティーハウス

風に立つ

著者名：柚月裕子／著

問題を起こし家裁に送られてきた少年を一定期間預かる制度——補導委託の引受を突然申し出た父・孝雄。南部鉄器の職人としては一目置いているが、仕事一筋で決して良い親とは言えなかった父の思いもよらない行動に戸惑う悟。納得いかぬまま迎え入れることになった少年と工房で共に働き、同じ屋根の下で暮らすうちに、悟の心にも少しずつ変化が訪れて……。家族だからこそ、届かない想いと語られない過去がある。岩手・盛岡を舞台に、揺れ動く心の機微を掬いとる、著者会心の新たな代表作！



ともぐい 直木賞受賞作品

著者名：河崎秋子／著

死に損ねて、かといって生き損ねて、ならば己は人間ではない。人間のなりをしながら、最早違う生き物だ。明治後期、人里離れた山中で犬を相棒にひとり狩猟をして生きていた熊爪は、ある日、血痕を辿った先で負傷した男を見つける。男は、冬眠していない熊「穴持たず」を追っていたと言うが…。人と獣の業と悲哀を織り交ぜた、理屈なき命の応酬の果ては一令和の熊文学の最高到達点！！

八月の御所グラウンド 直木賞受賞作品

著者名：万城目学／著

女子全国高校駅伝一都大路にピンチランナーとして挑む、絶望的に方向音痴な女子高校生。謎の草野球大会一借金のカタに、早朝の御所Gでたまひで杯に参加する羽目になった大学生。京都で起きる、幻のような出会いが生んだドラマとは一人生の、愛しく、ほろ苦い味わいを綴る傑作2篇。



まいまいつぶろ 直木賞候補作品

著者名：村木嵐／著

口がまわらず、誰にも言葉が届かない。歩いた後には尿を引きずった跡が残るため、まいまいつぶろと呼ばれ蔑まれた君主がいた。常に側に控えるのは、ただ一人、彼の言葉を解する何の後ろ盾もない小姓・兵庫。麻痺を抱え廃嫡を噂されていた若君は、いかにして將軍になったのか。第九代將軍・徳川家重を描く落涙必至の傑作歴史小説。

ラウリ・クースクを探して 直木賞候補作品

著者名：宮内悠介／著

ソ連時代のバルト三国・エストニアに生まれたラウリ・クースク。黎明期のコンピュータ・プログラミングで稀有な才能をみせたラウリは、魂の親友と呼べるロシア人のイヴァンと出会う。だがソ連は崩壊しエストニアは独立、ラウリたちは時代の波に翻弄されていく。彼はいまどこで、どう生きているのか？—ラウリの足取りを追う“わたし”の視点で綴られる、人生のかけがえのなさを描き出す物語。

響がけの二人 直木賞候補作品

著者名：嶋津輝／著

お嫁さんと、その家の女中頭。同じ屋根の下で暮らす、家族ではない二人は、仲間のような、子弟のような関係だった。千代は、三味線のお師匠さんをしているお初さんの家で住み込み女中の職を得る。目の見えないお初さんは、かつて千代が嫁いだ山田家の女中頭その人だった——。大正から戦後までにかけて、千代とお初という、年齢も性格も違う二人の女性の関係性を描く。



なれのはて 直木賞候補作品

著者名：加藤シゲアキ／著

ある事件をきっかけに報道局からイベント事業部に異動することになったテレビ局員・守谷京斗は、異動先で出会った吾妻李久美から、祖母の遺品である不思議な絵を使って「たった一枚の展覧会」を企画したいと相談を受ける。しかし、絵の裏には「I SAMU I NOMATA」と署名があるだけで画家の素性は一切わからない。二人が謎の画家の正体を探り始めると、秋田のある一族が、暗い水の中に沈めた業に繋がっていた一。

星を編む

著者名：凧良ゆう／著

『汝、星のごとく』で語りきれなかった愛の物語。「春に翔ぶ」—瀬戸内の島で出会った權と暁海。二人を支える教師・北原が秘めた過去。彼が病院で話しかけられた教え子の菜々が抱えていた問題とは？「星を編む」—才能という名の星を輝かせるために、魂を燃やす編集者たちの物語。漫画原作者・作家となった權を担当した編集者二人が繋いだもの。「波を渡る」—花火のように煌めく時間を経て、愛の果てにも暁海の人生は続いていく。『汝、星のごとく』の先に描かれる、繋がる未来と新たな愛の形。